

## 平成20年度学校経営計画表

## 1 学校の現況

学校番号	22		学校名	茨城県立緑岡高等学校			課程	全日制		学校長名	秦 雅 博					
教頭名	大 原 保 夫		大 内 誠 一					事務室長名	森 保							
教職員数	教諭	49	養護教諭	1	常勤講師	1	非常勤講師	2	実習教諭, 実習講師, 実習助手	3	事務職員	4	技術職員等	2	計	66
生徒数	小学科	1年			2年		3年		合計		合計クラス数					
		男	女	男	女	男	女	男	女							
	普通科	173	67	170	71	156	79	499	217	18						
理数科	31	9	28	11	35	5	94	25	3							

## 2 目指す学校像

文武不岐の伝統精神のもと、高い知性とたくましい心を持つ生徒を育成し、一人一人の希望を実現するとともに、社会に貢献する人材を輩出することにより地域社会から支持・信頼される学校を目指す。

## 3 現状分析と課題（数量的な分析を含む。）

項目	現 状 分 析	課 題
学習指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>1単位時間を55分に変更し、授業の充実を図った。</li> <li>授業開始前・放課後、土曜日、長期休業中に課外授業を実施し、基礎学力と発展的学習の強化に努めている。</li> <li>出張等には、授業振替を徹底して行っている。</li> <li>公開授業を前後期一定期間実施している。</li> <li>「家庭学習の記録」を作成させ、時間の効率的な使用を指導している。</li> <li>学習室を平日は19時、土曜日（12月～3月は土・日曜日）は17時まで開放し、自学自習のための利用を可能としている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>5分増加分を有効に活用する授業研究を行う。</li> <li>希望者に対して実施している。参加する生徒数の増加と出席率向上を図る。</li> <li>授業振替率は90.9%（前年度比△0.8%）であった。さらなる徹底を図る。</li> <li>授業の質的向上に資するため、教科をまたがった積極的参加を進める。</li> <li>自宅学習時間に二極化が見られる。個々の生徒の状況をふまえた指導を行っていく。</li> <li>環境の整った学校施設での学習を勧め、利用生徒数の増加を図る。</li> </ul>
教育課程	<ul style="list-style-type: none"> <li>現行教育課程の実施状況を検証し、次年度教育課程の編成に努めた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒の希望実現に最適の教育課程を検討し、実現を図る。</li> </ul>
進路指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>現役国公立大学合格者数86名、現役進学率66%であった。</li> <li>生徒実態調査を年2回実施分析し、学習等の意識や状況を把握して指導に生かした。</li> <li>職業観育成セミナー、学問観育成セミナー、大学模擬授業、進路講演会等により進路意識や学習意識を高めることができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>合格者、進学率とも向上が見られた。国立難関大学への合格者も増加した。維持・向上させていくことが必要である。</li> <li>結果のフィードバックや進路に係る情報を定期的に発信し、一段上の進路実現を図る。</li> <li>引き続き実施し、進路選択に役立てる。また、積極的な大学訪問を勧めていく。</li> </ul>
生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>毎月、マナーアップ週間を設定し、遅刻・服装指導を実施した。</li> <li>通学路における自転車の安全運転を指導し、施錠徹底等防犯意識の高揚を行った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>登下校時の交通事故防止、服装指導等、継続的に共通理解を持って指導を進める。</li> </ul>
特別活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>緑高祭等の学校行事を例年通り実施した。</li> <li>緑歩会においては安全なコースを開拓した。</li> <li>生徒会活動の活性化を進めた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>実施時期や内容の検討が必要である。</li> <li>新たな3コースが確定した。県南コースについては一部検討が必要である。</li> <li>更なる参加意識の高揚を進めていく。</li> </ul>
事務	<ul style="list-style-type: none"> <li>予算の効果的執行と堅確な事務処理を行っている。</li> <li>施設、設備を適切に管理している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事故やミスのない体制構築とチェックの励行を実施する。</li> <li>安全面のチェックとともに、県有財産の維持・管理を徹底する。</li> </ul>

## 4 中期的目標

- ・将来の職業を意識した進路指導を実践し、現役合格率80%、国公立大学現役合格120名、難関私立大学合格30名を目指す。
- ・質の高い授業を行うと共に、発展的・補足的な指導を提供する。
- ・授業中心の意識を徹底し、家庭学習時間を確保する。
- ・部活動や委員会活動を充実し、社会性・実行力・たくましい精神を養う。
- ・全教職員の共通理解のもと、生徒の実態を把握し、規律を重んじ思いやりのある生徒を育成する。
- ・教科・担任・部顧問等の中で生徒の情報交換を密にし、協力してきめ細かい指導を行うことにより、生徒・保護者との信頼関係を構築する。

## 5 本年度の重点目標

重点項目	重点目標
・授業第一の教育活動と自習時間の増加	①授業の質的向上を図りその成果を授業へ反映させる。 ②授業を受ける体制をつくるための予習・復習の実行を強化する。 ③基礎学力強化学習や発展的学習のための補習を行う。
・進路面談の強化と進学実績の向上	④現役での国公立大学合格者100名、難関私立大学合格者30名、現役進学率70% ⑤各種試験結果の分析とそれを生徒一人ひとりに活かす指導を行う。 ⑥各生徒の情報を関係教員が共有し協調して学習・進路指導に当たる。
・規律遵守の意識醸成	⑦教職員の共通理解により生徒の意識を高める。(礼儀、校則、公共心など)
・特別活動や学校行事への参加意識の高揚	⑧生徒会活動、学校行事、部活動などへの積極的な参加を促し自己管理能力を高める。 ⑨学校行事の内容や実施時期の検討を行う。
・適正な事務事業の実行	⑩予算の早期執行と適正な処理を行う。
・新規施策への定着化	⑪「道徳」授業の新担当者への引継ぎと授業内容の見直しを行う。 ⑫「人材育成・学校活性化支援システム」を本試行する。